

第1回与謝野町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議記録

■日 時		平成29年5月30日（火曜）午後7時30分～午後10時			
■場 所		岩滝保健センター 2階 会議室1・2			
■委員	出席	◎杉岡秀紀 委員	足立経彦 委員	安藤太郎 委員	糸井満雄 委員
		岡田三栄子 委員	佐々木貴昭 委員	白須寛規 委員	宮田英樹 委員
	欠席	岡本勝司 委員	杉原千明 委員	高岡政義 委員	水口慎太郎 委員
■事務局 (企画財政課)		小池大介 課長	谷口義明 主幹	小谷貴儀 課長補佐	池田雅広 主任
■説明員		大上寛起 商工課長補佐	松本潤也 商工主任	三田大智 農林課補佐	塩見雅樹 農林課係長
		植田弘志 観光交流課長			

注) ◎は座長

1. 開会（午後7時30分）

（事務局：小池企画財政課長）4月から企画財政課長を仰せつかっています小池と言います。どうぞよろしくお願いいたします。開会にあたりまして杉岡座長からあいさつを頂戴したいと思います。

2. 座長あいさつ

（杉岡座長）この会議はそれほど多く開催しているものではないが、きっちりと定期的に点検するということで、日常的に政策を走らせながらも、時に自己点検だけでなく第三者的な目線から政策を見るものである。時間に限りがあるため4つに分けて進めたい。一つは与謝野ブランド戦略、二つ目は同じ与謝野ブランド戦略になるのですが少し尺の長いもの、ここまで30分、30分。その後、観光と広域ということでDMOや広域圏の話。最後の30分間で移住ということで進めて行きたいと考えている。このメンバーが集まると毎回議論が白熱してしまい遅くなってしまいが、なるべく30分ごとに進められるように進行して行きたいと思う。

3. 議事

(事務局：小池企画財政課長) 只今、座長の方からありましたとおり、本日は平成 28 年度に地方創生加速化交付金と地方創生推進交付金を活用して実施した事業の検証を行っていただくこととしています。

(事務局：小谷企画財政課長補佐) 委員の皆さまへ事前に資料を配布していましたが、誤りがあったり、議論に合わせて順番を変更していますので、本日配布した資料をお願いいたします。加えて本日、事業評価シートを配布しておりますが、こちらにみなさんそれぞれの評価を記入していただく形にさせていただきますので、ご記名をお願いします。

(杉岡座長) 事業評価シートについては回収をする。何を書いていただくのかと言うと大きく3点ある。一つは事業の効果。このあと原課の方から説明していただいて、地方創生の目標に対して有効であったかどうかを判断いただきたい、その次が理由を書く欄で見直しをした方がいいのか、このまま進めていいのかを記入いただくわけだが、もし見直すということであれば1から13番まで選択肢があるので選んでいただきたい。さらに丸をするだけでは意見が分からないので定性的なコメントを書く欄を一番右に作っているの、どのような点が良くなかったのか、どうすればもっと良かったかということを書いていただきたい。事業ごとに進めていくが、一つ一つをみなさんと合意を取って行くところまでできないと思うので、委員の皆さんの意見を原課へ持って帰ってもらい、今後の事業推進に活かしていただきたいと考えている。それではブランド戦略の3事業をまとめて説明をお願いします。

<松本商工振興課主任から③与謝野ブランド戦略～YOSANO シルクプロジェクト～、⑦京野菜・織物リジェネレーション事業（織物）の説明>

<塩見農林課係長から②与謝野版農業モデルによる農産物ブランド事業、三田農林課課長補佐から⑦京野菜・織物リジェネレーション事業（自然循環農業）の説明>

(杉岡座長) 3事業まとめて質疑応答をしていただきたい。

(安藤委員) そもそもが事業評価シートの提出は今日か？事前に資料を配布いただいたが、説明を聞くだけで必死でこの時間内に評価シートを出すのは私は無理である。

(杉岡座長) それでは出せる方は今日出していただき、もう少し慎重に考え記入したいという方はお持ち帰りいただき、概ね1週間以内に事務局へ出していただくこととしたい。あくまでも政策の質を上げるためにやっているの、適当に書いていただくよりはそうしていただいた方がよい。

(安藤委員) 説明が終わったあとだが、この場では事業の効果がKPIに対して有効かどうかを評価することになるので、例えばそれぞれのKPIに対して目途はどうかとかいった部分をはっきりと発表いただきたい。例えば与謝野産関連商品開発件数の指標値の2件が、現在、全く目途が無いのか、それとも1件は堅いが・・・のような説明が欲しい。

(座長) 地方創生の取り組みが5年間ということで、5年かけてKPIを達成して行くものや、3年で達成して行くんだというものもあると思う。資料に目標年月の記載があるがこれが最終的な目標なのか、現在の中間目標なのかばらばらではないか。このあたりの統一が取れていないのが反省点。前回評価をした時に、このままでは5年後に達成出来ないということで2年目から諦めているものが何件かあったと思う。これはまだ諦めるのは早くもう少し工夫してみてくださいというやり取りがあったので、今の委員の発言になったのではと思う。説明の中で補足できる部分はお願いしたい。内容についてはどうか。

(佐々木委員) 与謝野シルクプロジェクトの指標で、新商品開発件数の指標値2件に対して実績値2件とあるが、

具体的に何が新商品として開発できたのか。ようやく桑を植えてこれから餌となる桑が育つ段階で実績 2 件が出るのは不思議である。

(松本商工振興課主任) 資料の誤りである。実績値は 0 件。

(杉岡座長) 資料の訂正をお願いします。

(佐々木委員) 目標時期が近すぎる。平成 30 何年に何件の方が適当と思う。

(杉岡座長) それぞれの指標値に 0 千円、2 件、0 件と記載があるが、わざわざ 0 件と書いている意図は何か。もともと戦略上には書いていなかったが必要だから入れたと理解したらよいか。

(松本商工振興課主任) 1 年目から売り上げが立つ見込みがないことから 0 千円としている。

(座長) 単年度の指標ということか。

(松本商工振興課主任) そのとおり。

(杉岡座長) 事務局にお願いだが、KPI の見方として最終的な数値と今年度の数値とどちらも無ければ議論が錯綜してしまう。今、これを言うのは遅いので、口頭で補えるのであれば、5 年間でいくらの目標を立てていて、今年度は実績がこれだけあったという感じでお願いしたい。

(足立委員) この資料はいつ作ったのか。去年、シルクの売り上げは 54 万円ほどあったと思うが。

(松本商工振興課主任) 国の申請時点で平成 29 年 3 月末の指標値を 0 件としており、途中で変更申請をしたりと委員のみなさんにはややこしい事情となっている。平成 29 年度に売り上げ実績が上がってくることになる。

(杉岡座長) 変更申請はだいたい下方修正になっていると思うが、0 という目標はあり得ないはずなので最終的な数値はあると思う。その数値はあるか。

(足立委員) 指標値 0 千円という KPI をここで出すこと自体がおかしいのではないか。これは売り上げが立つ次年度以降にでてくるものではないか。

(松本商工振興課主任) 向こう 3 年間の指標値を示すようになっており、資料では初年度のみ記載となっている。委員の皆さんへは 2 年目、3 年目の指標値が見えない資料となっているのがややこしくしている。

(足立委員) そうであれば京野菜・織物リジェネレーション事業の KPI は目標年月平成 32 年 3 月の記載があり、これが平成 29 年なら数字が変わるはず。国から交付金をもらうための行政風の見せ方ではなく、現実の数値を見せてもらった方が良い。

(杉岡座長) 本当は仕切り直した方がよいというのが正直な感想。総合戦略は住民との約束ではあるが、交付金をもらっている関係で国との約束でもあるため、国申請の数字が資料に出てくるのは仕方がないものの非常に分かり難い。この会議は住民の皆さんが集まっているので、本来であればこのような国のお金を使ってどのような目標で、今どこまで来ているのか分かるという説明の方が議論がかみ合うと思う。今日はこの点についてはお許しいただき、内容についてご意見をいただきたい。シルクプロジェクトで推進協議会が出来たり、京の食 6 次化推進協議会の記述があったりと民主導、様々な連携が出て来ていることは良く分かるが、町や協議会の役割はどうか、主体はどこかなど分かり難い。シルクプロジェクトで言うなら推進協議会が KPI を達成するという読み方をするのか、推進協議会はあくまでも手段で、町として KPI を達成して行くのか。

(松本商工振興課主任) 推進協議会と町の役割分担が大きな課題となっている。KPI の起業件数は推進協議会ではなく民間事業者が主体。新商品開発件数は民間事業者もあれば協議会そのものということもあり得る。シルクの売上額も協議会もあり得るし関連の事業者が生まれて売り上げが上がることもある。スタートとしては協議会が一事業者の役割を担うと考えている。

(杉岡座長) まだ整理中かと思う。最終的には町民のみなさんがブランドが出来たよねという状態になること。今日の話をお聞きしていると、シルクとか京の豆っこ、丹後ちりめん、SOFIX などそれぞれは良い玉だと思うが、いろいろな

新しい言葉があるとブランドとしてぶれてくるので、そのような意味においては与謝野イコールほにゃらら、ほにゃららイコール与謝野となることがブランド化の本旨だと思う。それが結果として売り上げに繋がっていく、所得に繋がっていくことが重要。そこに繋がって行っているのかということを我々は点検しなければならないことである。

(宮田委員) KPI のみで一枚の資料を作っていた方が見やすいかと思う。それと SOFIX ブランドは要件が厳しいため認証まで至らなかったとのことだが、かなり基準と開きがあるのか、もう少しで行けるのか。それと流通の関係で SOFIX 農業推進機構会員のイオンとの取り引きがやりやすいと言う事情があるかもしれないが、それで認証を受けて地元の農業者がどれだけ潤うのか見えにくい。

(塩見農林課係長) 9 圃場の水田を分析したが結果、かなりの開きがあった。しかし 1 年で要件を満たせるものではなく微生物を増やしていくことからそれなりに時間がかかるもの。平成 29 年度は施設園芸、具体的にはきゅうりと九条ネギの圃場で分析を進める予定としている。

(三田農林課課長補佐) 推進機構とある会社が連携して、SOFIX 認証された圃場で栽培されたものは買い上げるといいうゆる契約栽培の動きがあり、安定的に高収入を得ることができる農業ができる。

(杉岡座長) ISO の基準が少し厳しすぎて費用が高い割にはメリットが少ないことから、京都では KS という独自の基準を立ち上げて中小企業がそれを取ったという話もある。SOFIX があまりにもハードルが高すぎて実績 0 件が続くようなら、京都版 SOFIX みたいなものをつくりそれでメリットが出る仕組みがないと、何のためにこれをやっているのか分からなくなる。SOFIX をどのように戦略的に位置づけるのか議論し続けた方がよい。SOFIX そのものをもっと知ってもらうような動きをしなくてはならない。町が SOFIX 認証を政策的に誘導するからには説明責任もあるので引き続きフォローされたい。

<松本商工振興課主任から①クリエイターと起業家による魅力あるものづくり・まちづくり創造事業の説明>

(杉岡座長) ハードとして施設改修に約 800 万円と備品に 300 万円、合計 1,100 万円となっているが、倉庫ということで良いか。権利関係はどうなっているか。町の所有なのか。

(松本商工振興課主任) 町の所有ではない。町は補助金による支援の立場。

(杉岡座長) 改修工事はいつ終わったのか。

(松本商工振興課主任) 平成 29 年 3 月である。したがって施設利用者数が 0 人という結果となった。

(杉岡座長) トライアル事業収入に係る売り上げ収入がマイナス 172 千円はどのような意味か。

(松本商工振興課主任) 事業収入が 172 千円あったのだが、事業費から事業収入を引くルールになっているためマイナス表示をした。

(安藤委員) 初年度としてはよく頑張っているなという印象。

(杉岡座長) 2 ページ目の資料を見ても同感。この事業はクリエイターと起業家を生み出すことを指標としているため、どの様な人が来るのかも重要。目星はあるのか。

(松本商工振興課主任) この事業そのものということではなく、ブランド戦略という動きの中で企業進出というのは手応えがある。ただ目に見える形にはなっていない。

(安藤委員) 事業者が与謝野町に来て商売することを起業とらえるのか、法人立ち上げをカウントするのか明確な線引きがあった方がよい。

(杉岡座長) 東京に本社がある企業が与謝野に本社を移すだけでもカウントしたらよいと思うが、定義を明らかにしておかないと納得が得られないかもしれない。また阿蘇ベイエリアだけをカウント対象にするのか与謝野町全体でもいいのか。どう考えるかである。

(松本商工振興課主任) ここでの起業は、起業支援プログラムを受講され、その後に起業された方という捉え方でカウントした。国向けには阿蘇ベイエリアというのを強く打ち出しているのも理由。

(杉岡座長) 定義を厳しく絞ってカウントしたということだが、もう少し緩やかに町全体で気風を高めて行くといいかもしれない。加悦地域でも野田川地域でもこのような起業の動きが出てくると双発してくる。最終的には阿蘇ベイエリアが象徴的な起業家が集まるゾーンになって欲しいが、日本遺産で選ばれたのはちりめん街道であり、風を活かさない手はない。

(佐々木委員) インキュベーションは箱ではなく人だと思っている。運営費用として2,467千円となっているが、相談を受け答えてくれる人がおられるわけでもなく、どのように人を呼びこむのが課題ではないか。

(杉岡座長) 鶏と卵の議論になるかもしれないが、ハードがいいから人が集まることもあれば、人が人を呼ぶというもある。施設の周りに例えば青春を語れる方がいらっしゃるかと言えばそうではなく、どちらかと言えば寂しい雰囲気。むしろちりめん街道の方がまだ人がおられて、その雰囲気、空気感の方が入りやすい気もする。

(白須委員) 私はシェアオフィスをやっていてそこに色々な人が入ってくるのだが、使うということについてハードルを低くして、まずは「使われている」ということを表に出すと伝えやすい。それが広まると色々な人が入ってくる。いい場所なので継続的に使っていくようなプログラムがあるとよい。

(杉岡座長) 舞鶴市では赤れんが倉庫の真ん中にブリックハウスといって1週間日替わりでやっている。平日は閑散としているが土日は結構お客さんが付いている。ずっと借りるより週替わりの方が借りやすいし、みなさんで使っていると皆さんの意見が入って少しずつ使い方が良くなっていく。試しにとサテライト的に使ってみる等柔軟な使い方ができるといいかもしれない。

(松本商工振興課主任) ご意見ありがとうございます。この倉庫の案件は運営する民間事業者が決まっているので行政が指示することはできないが、岩滝母と子どものセンターをこの事業とは別に改修しており、その使い方の参考にさせていただきたい。

(糸井委員) インキュベーション施設は山与醤油倉庫を改修したということか。誰が使っているのか。岩滝に住んでいるが知らなかった。

(松本商工振興課主任) 外観は改修されていないので一見は分からない。中の改装、特に水回りを改修され、必要な備品を購入されている。

(杉岡座長) 備品の所有者は誰になるのか。

(松本商工振興課主任) 補助支援した団体。

(糸井委員) この団体が運営しているということか。どのような事業をしているのか。

(松本商工振興課主任) そのとおり。場所貸しが大きな軸とのこと。

(杉岡座長) 物件所有者と補助支援した団体とはどのような関係性になっているのか。協定書を締結しているのか。

(松本商工振興課主任) 把握はしているが、民間同士のため発言は控えさせていただきたい。

(杉岡座長) 気になるのは、民間の施設に公金を入れていること。なぜその団体さんなのか等の説明責任は求められる。

(松本商工振興課主任) 全ての事業を公募して審査し進めているので問題ない。

(糸井委員) 現在の活用状況はどうか。

(松本商工振興課主任) いろいろと使われているようだ。

(杉岡座長) 外から来る人が利用するだけでなく、ご近所さんとかも認知されていたり、ここがしっかり見えるような仕掛けを考えていかなければならないと思う。

(足立委員) 昨年の10月から2月まで毎月連続してトライアル事業をされ、その後収束している形になっているが、実際、補助団体さん自身が貸された件数は、平成29年度の事業計画は町が把握しているか。

(松本商工振興課主任) 手元に資料はないが、どのように収益ベースに乗せて行くのか、次年度展開について実績報告書で述べられており、そのような方向で進めて行かれるものと考えている。貸スペース業を広くやって行かれることと自社による自主イベント開催。

(足立委員) あの場所を貸しますという情報発信がほぼ無い。ホームページを作っておられるが報告しかない。事業計画が無いと思われても仕方がないので、せっかくの施設を活用した事業展開を期待する。

(杉岡座長) 民間主導は耳触りがよいが、公金が入っているので今後もそのあたりは問われてくる。岩滝地域が盛り上がるのがとても大事でありそうやって欲しいが、加悦地域、野田川地域の人にとっても魅力的でなければ、他の町の人にとっても恐らく魅力的でないと思う。民間が民間に貸すわけだが公金が入っているので、行政として言うべきことは言わなければならない。そこも民間主導に任せるとKPIは達成できない。

(足立委員) せっかく中は綺麗なのに見る機会が無いのは、誰も借りようとしないうし、貸してやらないという誤った発信にもなる。誰かがそこにいて、開放して見ることができるようになればいい。

(杉岡座長) 毎日、そこに人を付けることができないということ。近所の人が開けてあげるとか、地域としてお金が落ちる、そこで小商いが出来るようなそんなやり方をして行かないと民間主導は言葉だけで終わってしまう。理念は素晴らしいが応援者がいなくなってしまうのが危惧される。

(糸井委員) トライアル事業によって公園の新たな活用の可能性を見出すことができたところがある。

(松本商工振興課主任) 従来から商工会青年部さん、優良産品認定業者会さん、岩滝長寿会さんらで実践されてきたが、海の活用を意識したものや、早朝や夜の公園利用の提案がありやってみたという部分がこれまでと趣が違っている。

(杉岡座長) 時間の活用はすごくいい。単発ではなく続けて欲しい。今年は計画されていないのか。

(松本商工振興課主任) ヨガは計画していると聞いている。

<植田観光交流課長から④京都府北部地域連携都市圏広域観光推進事業（海の京都 DMO 地域活性化推進）、⑥京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業の説明>

<谷口企画財政課主幹から④京都府北部地域連携都市圏広域観光推進事業、⑥京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業の補足説明>

(杉岡座長) 海の京都 DMO 関係は、負担金と京都丹後鉄道のハード改修。もう一つのステップアップ事業は、ヘルスツーリズムのワークショップの費用という説明であった。ステップアップ事業のKPIとして定住人口減少の抑制を掲げるのは無理があると思う。温江地区の人口抑制を目標とするなら分かる。

(小谷企画財政課課長補佐) ステップアップ事業は京都府北部5市2町という大きな枠組みの事業となっているが、この資料がその事業の中から与謝野町の事業のみを抜き出したものとなっているため、定住人口減少の抑制という大層なKPIとの違和感が出てしまっている。5市2町で今後5年間ステップアップ事業を展開していくわけだが、与謝野町として見た場合として町全体の人口をここで記載しており、事業のKPIというより町の総合戦略で掲げているKPIがここに掲載されている形になっている。ご指摘のとおり評価し難い資料としてしまっている。

(杉岡座長) 事業独自のKPIを記載した資料にしないと分かり難い。

(足立委員) 今後5年間、「美と健康を育む天空の里 大江山・温江」を進めるという事なのか。

(植田観光交流課長) そういう訳ではない。平成28年度はこれを実施したということ。

(安藤委員) 参考に付けて頂いている広域連携促進事業に記載の農商ビジネスフェアはいつどこで開催されたのか。主催者は。

(谷口企画財政課主幹) 12月に山与醤油さんの倉庫において都市圏形成推進協議会主催で開催。事業自体はプレイスへ委託した。

(安藤委員) 協賛・後援はあったか。

(谷口企画財政課主幹) ない。

(岡田委員) 全体を通しての意見だが、全く素人の私でも分かる資料にしていきたい。指標と実績を見ると必ず実績が低いということは、指標設定が甘いのか、希望的観測なのかという感想を持った。

(杉岡座長) 海の京都事業ではDMOを設立して宮津と舞鶴は伸びている。天橋立周辺地域だけ地価が上がったという話も聞いているが、与謝野町までこの取り組みの効果が来ていない。舞鶴港にクルーズ船が去年の3倍入ってくる予定とのことではチャンスなんだが、果たしてそのお客さんをここまで引っ張って来れるのか。やや宮津と舞鶴だけが伸びていて他の市町に広がっていないと感じる。

(植田観光交流課長) おっしゃるとおり。数字の分析結果でもそのように出ている。現状を見ると道の駅が閉鎖しており客数は減る一方で、丹後ちりめんが日本遺産に認定されたという追い風も感じる。ゴールデンウィーク中に与謝野町観光協会の来客数は去年の2.2倍であった。

(杉岡座長) 日本遺産認定以降の人の流れはどうか。

(佐々木委員) ちりめん街道周辺では例年どおりであった。

(杉岡座長) 先ほど阿蘇ベイエリアプロジェクトの話があった。町全体として考えた時に地域としてのブランド化、あるいは人の集積という点でいうと、加悦のちりめん街道と観光DMOとの話がリンクしなければもったいない。ちりめん街道をどのように戦略的に位置づけるのか。日本遺産認定前後では違ってくると思う。

(植田観光交流課長) 現在のメインはちりめん街道で阿蘇シーサイドはこれから何とかして行こうと言う段階。

(杉岡座長) ちりめん街道に来られる方の交通手段は何か。

(佐々木委員) マイカー、団体旅行バス。公共交通ではほとんどないと思う。

(杉岡座長) 舞鶴や宮津・天橋立に来た人がどのような手段でここまでたどり着くのが大事。

(植田観光交流課長) 観光協会で実施されている手機体験の人数が多くて、ちりめん街道を見るのは少ない。天橋立に来られたお客さんがこちらへ来てもらえる二次交通の提供試験も行っている。

(杉岡座長) 工夫次第でまだまだ伸びしろがあると思う。

(足立委員) 5市2町で点を線にして面にするとと言っても、与謝野町にはネタが無さ過ぎるので、ネタをもっと確立しなければいけない。これまでいろんな方がワークショップをして汗水垂らしておられるので、これらを殺すことなくきちっとしたものを作ってもらいたい。

(杉岡座長) 官主導ではなく住民の皆さんの力がどんどん出てくるいいと思う。

<谷口企画財政課主幹から⑤京都府北部地域連携都市圏移住・定住プロジェクトの説明>

<植田観光交流課長から与謝野町単独の移住定住事業の説明>

(杉岡座長) 「試住」という言葉が非常に良いと思っているのだが、完全造語で与謝野町以外で使っていないか。

(植田観光交流課長) お試し移住のことで、おそらく本町だけかと思う。

(杉岡座長) お金でなくていいので、試住していただいた方に何かを渡すことで、分母を増やすことができると思う。これはとても可能性を感じる取り組みである。

(白須委員) 学生 5 人連れて来て空き家で生活しながら、そこをリノベーションして活用する提案をさせた。学生としても刺激になったということでもたやりたいと思っている。試住はどこに住まれたのか。

(植田観光交流課長) 民間のモデルハウスを貸してもらったり、ユースセンターに泊ってもらった。

(白須委員) 制度的にハードルがあるのだろうが、民泊的な形がよいかもしれない。旅行で滞在すると試住で滞在するのは本人の意識の問題だと思う。

(植田観光交流課長) 与謝小学校区が京都府の移住促進特別区域になっており、そのエリアで空き家を改修されてお試し移住していただける家があればいいと考えているが、現在はそこまで進んでいない。

(杉岡座長) 改修補助金はいくら出るのか。

(植田観光交流課長) 180万円。そのうち2分の1が京都府。残り2分の1が与謝野町から出る。購入も対象となっており不動産取得税の減免等のメリットもある。

(杉岡座長) 住むだけでなく、お試し働きがあるととても良い。

(植田観光交流課長) 先ほど説明した短期滞在プログラムがそうになっている。

(谷口企画財政課主幹) 空き家リノベーションでしかたが実現できなかった。また空き家の草引きや掃除を宿泊代にするというアイデアも教わった。このプログラムの参加者をお客さん扱いたのが反省点。

(植田観光交流課長) 空き家リノベーションのプログラムでは地元の高校生が関わってくれたのも想定外の収穫であった。

(足立委員) リノベーション実践塾の空き家はどのようにして探したのか。

(白須委員) 委託事業を受けている方が探された。

(谷口企画財政課主幹) この実践塾に大阪から参加された方が地元の方で、自分の与謝野町内の実家を提供された。

(白須委員) 関西にある建築合宿では大学生の1, 2回生を対象に1週間程度泊まり込んで一人5万円払って、提案して労働して怒られて帰ってくる。与謝野町みたいな地域で学生が入ってやるのは本当に刺激がある。今回は空き家だけで海とか行っていないので、夏に合宿的にやってみようと思う。

(杉岡座長) 与謝野町では京都Xキャンプが入っているが、さらに建築に特化したキャンプができるとおもしろい展開ができると思う。

(安藤委員) 本気で移住を考えている人は、与謝野町の空き家の現状に不満を持っておられて、結果的に他所の賃貸住宅に入られたという事例が多い。空き家を綺麗にしなくていけないというのは、我々が思っている以上に綺麗にしなくてはならなくてならない。水回りと寒さ対策の2点に尽きる。

(白須委員) 逆に屋根も落ちているような物件が良いという人もいて、空き家バンクとして色々な物件があると思う。

(植田観光交流課長) 町の空き家バンクをスタートさせたが、7、8件の登録に留まっている。空き家調査をして空き家所有者の賃貸や売買の意向調査もしたが反応が少ないのが実態。

(安藤委員) 町営住宅はどのような状態か。満員なのか。徳島県神山町では町営住宅を1部屋200万円のリノベーションをして人を埋めたというのも参考になる。

(杉岡座長) 与謝野町の戦略としては、与謝野町に住みたいと思う人を受け入れるという感じなので、町としては民だけに任せずその環境を整えてあげなければならないのではないか。

(植田観光交流課長) 町が古民家を改修してお試し住宅を設置するというのは、財政事情もある。

(杉岡座長) 共感してくれる人からお金を集めるクラウドファンディングという手法も考えられる。

(岡田委員) 全体のことだが、種を巻いて、芽が出て、何年後にはこんな状況になるという資料があるとありがたい。

(杉岡座長) 資料の作り方として、是非、そのようにお願いしたい。

(小谷企画財政課課長補佐) 5年間の全体と其中で今はこのような状況であるということが分かるような資料がよいと思った。

(杉岡座長) 今後も質を上げて行く議論というものをしていきたいと考えている。よろしくお願いしたい。

終了：午後10時

事業評価シート記載内容

与謝野ブランド戦略～YOSANO シルクプロジェクト～

①利用ニーズを調査すべき

協議会で協議されている具体的な動きを公開して現実的な事業や開発の商品化によつての町内の仕事を生み出す仕組みを具体的に説明すべきだと思います。

①利用ニーズを調査すべき

⑩民間委託を行うべき

「シルクプロジェクト」に関しては、現下、立ち上がった協議会の主体性を十分に尊重した対応が肝要であると思料します。

推進協議会が企画、推進の主軸となり、不足する事務的マンパワーを広報組織（行政？）がアシストする形が効果的だと思います。

桑 → 蚕 → 製糸

一本のルートにこだわらない柔軟な展開が可能なプロジェクトであることを期待します。

⑬その他

かべ新聞は○

協議会と町の役割分担は？

京野菜・織物リジェネレーション事業

⑥広告等による歳入確保を図るべき

野菜の PR 不足は否めない。与謝野町の野菜はとても美味しいので自信を持ち「ブランド力」に力を入れて展開してほしい。

⑧施設を更新すべき・・・豆っこ肥料

⑬豆っこ米の定義の再検討が必要では？

（京野菜）

豆っこ肥料、豆っこ米、野菜との関連は？

これらの現時点での生産量は H32.3 月期 KPI の達成には難しい水準だと思います。

（織物）

補助金交付だけでは押し測れません。

⑬その他

リジェネは分かりにくい。

与謝野版農業モデルによる農産物ブランド事業

①利用ニーズを調査すべき

ホップの需要がどのくらいあり、供給がどのくらいの予定かを公開して、期待ばかりでなく現実的な展開を進めていくべきだ

<p>と思います。</p>
<p>③その他</p> <p>ホップについては相応の進捗と史料します。但し、今後の課題として幅広くホップを育てたいと志す方々にも広く機会が与えられる公平性の確保が必須であると考えます。</p> <p>SOFIX「要件が厳しく認定まで至らなかった。」この文言は全面削除されることを強くお勧めします。自然相手に不可抗力が多大にある部分は理解しますが、この文言は「事前調査不足」「努力不足」と捉えられる可能性が強いと思います。</p>
<p>③その他</p> <p>SOFIX は野心的だが広がるのか？</p> <p>ホップはまだ見えない。（飲めない）</p> <p>京の豆っこ（米）はブランドになり得るのか。</p>

クリエイターと起業家による魅力あるものづくり・まちづくり創造事業

<p>①利用者ニーズを調査すべき</p> <p>インキュベーション施設利用者数、起業支援プログラム参加者数、受講後の起業数と指標値より大幅に実値数が少ないのは、与謝野町の魅力が十分に理解してもらえなかったのではないか？と思える。</p> <p>起業家にとっての必要な事を調査して、起業家の立場にたつての提案を考えるべきだと思う。</p>
<p>③その他</p> <p>起業関連、現状は「ここで起業しようとしている人」を今の取り組みに絡めることが目的化しているようにも受け止められます。「起業を考える人が外からも集まる」機会、受け入れる人・組織の構築が求められると思います。</p>
<p>④事業規模（事業費、補助金等）を見直すべき</p> <p>核（広告塔）となる人/コーディネーターが現れないと厳しいのではないか。→目星はあるのか？</p> <p>箱を使うハードルを下げる。</p>

京都府北部地域連携都市圏広域観光推進事業（海の京都 DMO 地域活性化推進）

<p>①利用ニーズを調査すべき</p> <p>手機体験など継続する事が大事であると思う。</p>
<p>③その他</p> <p>観光協会様のさらなるアグレシブな活動を期待します。</p>
<p>③その他</p> <p>人材育成は？</p> <p>クルーズ観光客へのアプローチは？</p>

京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業

<p>与謝野町の民話の活用及びそれに大小たくさんの古墳を利用して町の PR して来訪者を増やせればと思う。遊歩道の利用を考えて（与謝→加悦奥→男山）古墳で結ぶ。</p>
--

①このまま現行どおり（事業内容・事業対象・事業規模・事業手法）で進めることが望ましい
日本遺産を追い風に出来るか。
内部公共交通の議論を。

京都府北部地域連携都市圏移住・定住プロジェクト

①このまま現行どおり（事業内容・事業対象・事業規模・事業手法）で進めることが望ましい
与謝野町の魅力を最大限に情報提供し、より効果を上げてほしい。

②事業内容を抜本的に見直すべき

人口増加へ求められるものは「イベント」への参加者数増加ではなく、住民票を移す転入者の増加。

地域連携も必要かとは思いますが、それよりも近隣他地域に打ち勝つことがさらに重要。

また地域の方には大変失礼ですが、与謝野町として「都会の人」が住める家/部屋を準備することは最低限必要だと思います。

「特異な人」だけを少しでも受け入れることもアリだとは思いますが「普通の人」により多く来てもらわないと人口は増えません。目的に沿った行動が必要だと思います。

③その他

試住はもっと攻めれるのでは。

×働き